

巡 礼 は 総 合 病 院

巡礼とは、あえて困難に挑戦する旅でもあります。遠い道のりを、あるいは急峻な山道を、苦勞をして、べそをかいて、ひたすら歩き続ける旅が巡礼です。雨の山道は辛いけれども、しかし、山林の中を一人で歩いておられますと、雲が天より下って地に流れ、煙のように走る風雨ですら楽しむことができます。ましてや、鳥がさえずる緑陰を歩く草道は、まさしくひとり旅の醍醐味といえましょう。

巡礼で得た見聞はすべて自分の血肉になってたくわえられます。しかも魂が浄化されて、そのありがたさが生涯の宝ものとなります。日がたつにつれて、巡礼の体験が日常生活の中によみがえり、それが仕事の活力になり、人生の励みともなります。

長旅は無理だと心配していても、思い切って巡礼に参加しますと、皆さんと共に参拝の旅が続けられるものです。出掛ける前は、団体に付いて行けるのかどうかを心配するものですが、出たしまえば行程の流れに楽しくついていけるものです。

おおよそ巡礼の目的には、「祈願」「供養」「健康」「慰安」「修養」というような自分探しの意味が含まれます。いろいろな動機で人々は巡礼の旅に出ます。まさに霊場めぐりは総合病院だといえましょう。

四国路は、山に向かったり、海を眺めたりしながら歩きます。その風景から感興が湧きあがり、心が自然の中へ融けこんでいきます。遍路は人生そのものです。散る花のすがたに、移り変わる自分を見つめたいものです。